（公財）山形県埋蔵文化財センター市町村巡回展

発掘された

朝日町の遺跡

令和５年９月27日（水）～10月22日（日）　エコミュージアムセンター創遊館
ギャラリートーク：10月１日（日）　11：00～11：40

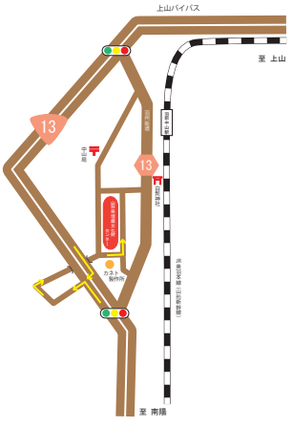
朝日町の発掘調査

山形県の中央部に位置する朝日町は、西に朝日連峰がそびえ、中央を最上川が流れる自然豊かな町です。現在旧石器時代から近世にかけて52ヶ所の遺跡が確認されています。特に中世の楯跡が多く確認され、軍事上重要な拠点であったことがうかがえます。今回、県埋蔵文化財センターでこれまで発掘調査を行った３遺跡を公開展示します。

沼向遺跡

平成12年に国道287号道路改築事業に伴い発掘調査が行われました。縄文時代早期～前期の縄文土器が出土しました。調査区東側に低湿地帯、西側で規則的に配置された陥穴が確認され、動物の水飲み場に向かうけもの道で獲物を捕獲する当時の狩りの様子がうかがえます。

調査区全景



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
TEL:023-672-5301　FAX:023-672-5586
HP:http://www.yamagatamaibun.or.jp
E-mail:yac@yamagatamaibun.or.jp

八ッ目久保遺跡

国道 287 号道路改良工事に伴い発掘調査が行われました。現在の集落が営まれている面より、一段下がった段丘面の調査で縄文時代中期中葉～末葉（約 4,500 ～ 4,000 年前）の遺構や遺物が確認されました。竪穴住居跡は炉跡のみ検出されたものも含め 7 棟確認されています。それぞれの住居跡から出土した縄文土器により 4 つの時期にわかれて、小規模な集落が営まれていたと思われます。その他にも 46 基の陥穴や、土坑が検出されました。

出土した注口土器

検出された竪穴住居跡

昭和新田遺跡

調査により平安時代と中世の二つの時期の遺構や遺物が確認されました。平安時代は 9 世紀後半（約 1100 年前）の集落跡が確認され、8 棟の竪穴住居跡や井戸跡、土坑などの遺構や、須恵器・土師器などの遺物が見つかりました。中世の遺構として、庇付の掘立柱建物跡を中心にした建物跡群が検出されました。遺物はわずかですが、瓷器系陶器の甕や青磁椀が出土しています。

発掘調査風景